

ふたばっ子とともに

R5. 2. 15

2 / 1 (水)の朝会では、2日後の「節分」の豆まきで登場する「鬼」を取り上げて、次のような話をしました。

「あきらめない・我慢する・受け止める」

—前略—

最近、とても素晴らしいなと感じたことがあります。それは、5年生のことです。総合の学習で、環境やSDGsについての学習を進めてきました。それらを「自分たちだけの学び」に終わらせるのではなく、双葉小のみんなにも伝えたり、いろいろな人の力を集めてできることへとつなげたりする活動を計画し、実行しました。昨日の昼休み、5年生が行ったイベントに参加した人たちがたくさんいましたね。

このように、「わかった、できた」で終わるのではなく「これを使ってこんなことができそうだ」とか「このことを知ったから、あれに挑戦してみよう」と、学習したことが次につながっていくのは、とても素晴らしいことだと思います。5年生のように、みなさんも何かに学んだことを生かせないか…考えてみてください。

さて、今日から2月。あさって2月3日は、冬と春の季節を分ける「節分」です。「家でまめまきをするよ」という人。なぜ、豆まきをするのか、知っていますか。

そうです。「鬼」、つまり「病気や災害など、人にとって悪いもの」を追い払うためです。

担任の先生や授業をしてくださる先生からお話をされているかもしれませんが、みんなにとっての「鬼」は何ですか。

「静かにする時におしゃべりをしてしまう鬼」

「あいさつや返事がなかなかできない鬼」

「言葉遣いの悪い鬼」

「気持ちをすぐに切り替えられない鬼」

などなど、一人一人に退治して乗り越えたり、克服したりしたい鬼がいるのではないのでしょうか。ここでいう「鬼」は、みなさんの中にある「弱い心」のことです。

では、こんな鬼と戦っている人はいませんか。

「すぐにあきらめる」 「がまんできない」 「誰かの・何かのせいにする」

私たちの生活は、自分の思い通りにならないことがたくさんあります。だからと言って、我慢できなかつたり、すぐにあきらめたりしていたら、「がんばって続けてよかった」にたどり着くことは絶対にありません。

また、本当は、自分で乗り越えなければいけないのに、あきらめたり、我慢できなかつたりするのを、誰かや何かのせいにして、本気で問題と向き合おうとしなかつたら、自分が望む状況や環境に変わっていくはずがありません。

少し想像してみてください。

学校の周りに桜の木がありますね。いま、どんな様子か分かりますか。そうです。「春」になったら、あのきれいな花を美しく、思い切り咲かせるために、この寒い「冬」にじっと耐えているのです。

もし、桜の木々が「寒い。つらい。もういやだ。我慢できない。もう無理。」と言って、寒さに耐えるのをやめたらどうなるでしょう。その通り。今度の春に、桜の花は見られないどころか、これからずっと私たちが桜を見ることはできなくなってしまいます。

実は、人も生き物ですから、同じなのです。桜の木が逃げずに、一生懸命向き合って耐えている「冬の寒さ」のように、私たちにも「つらいこと」や「苦しいこと」、「やりたくないけれど、やらなければいけないこと」などは、必ずあります。そんなとき、すぐに「心が折れて」落ち込んでしまったり、「キレて」暴れたり、「だって…」と誰かのせいにしたりにしていても、何の解決にもなりません。きれいな花は咲かない、つまりあなたが望む良いことや嬉しい結果にはたどり着かないのです。

やはり、「つらいこと」や「苦しいこと」などを乗り越えるためには…。「粘り強さ」「我慢強さ」、そして「問題を受け止める力」が必要です。その力をつけるためにも、みんなは学校や家で、いろいろなひと・もの・ことと出会い、それらと向き合いながら学んでいるのです。



さあ、あなたの心には「あきらめの鬼」や「がまんできない鬼」、「誰かや何かのせいにする鬼」がいなくどうか…じっくりと探してみてください。また、これまでの生活の中で、自分の中に「粘り強さ」や「我慢強さ」、「問題を受け止める力」がついてきているかどうか、確かめてみましょう。

子供たちは、様々な学習の中で「あとちょっとでこの課題が解決しそうだ」「もう少し練習すれば〇〇ができる」「この理由が分かれば全部説明できると思うのだけど…」という場面に出合い、それを克服したり、乗り越えたりしながら、「我慢強さ」や「粘り強さ」を身に付けていきます。ただ、「頑張ってやり遂げた」「あきらめないで良かった」という経験がある程度しないと、その「我慢強さ」や「粘り強さ」が発揮できるようにならないのも事実です。

ですから、ほんのちょっとの頑張りによって達成できる場面において、友達や先生、家族の励ましや応援を受けながら、その子自身が「自分の力でやり遂げた」という経験を積み重ねていくことが大切だと考えます。

子供たちが「これなら乗り越えられそうだ」と思う課題と向き合った時、周りの人から励まされたり、支えてもらったりしながら、課題を克服していく力が身に付くよう、また、そうした経験を積むことによって、「これを越えるのは少し大変そうだ」と感じる課題と向き合った時でも、一人で、もしくは仲間と力を合わせて困難な課題に立ち向かっていく力が育てられるように、これからも「ともに」学び合う双葉小学校でありたいと思います。